



●先生のおすすめ絵本●

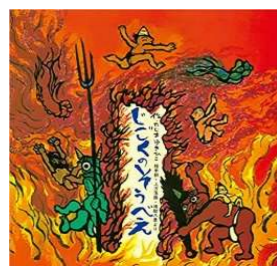
かいじゅうたくはいびん (作) 澤野 秋文 (出版社) 講談社

ママに叱られて頭にきたけんたは、自分の部屋に閉じこもってしまいます。そんな時にピンポンとチャイムが鳴りました。ママが出ないようなので、恐る恐る玄関のドアを開けると、「ちわ！ かいじゅうたくはいびんです」。かいじゅうたちが、けんたに大事な卵を届けに来た、と言うのです。卵のかえし方を教えてもらって、卵を温めるけんた。名前をつけて、抱っこして、名前を呼んで、といつも育てられている側のけんたが、育てる側になってみて気づいたこととは？ポップな色合いで、絵本いっぱいダイナミックにイラストが描かれていたり、よく見るとページの隅に変な小物が描かれていたり、細部にまでこだわっているのがじっくり隅々まで見たくなる作品です。お話の途中で卵がいなくなってしまう、絵の中から探す場面、ひよこ組の子どもたちは「あ！ いたよ！」「どこどこ？」と大盛り上がりでした！ 最後には育てる側を経験したけんたが気づいた事に、ほっこりした気持ちになれる一冊です。



<ひよこ組 F先生>

じごくのそうべえ (作) 田島 征彦 桂米朝・上方落語・地獄八景より (出版社) 童心社



“とざい とうざい。かるわざしの そうべえ。いっせいいちだいの かるわざでござあい。”のフレーズから始まるお話。その主人公のそうべえがいきなり地獄に行ってしまうのですからびっくりです。地獄の様子、鬼や閻魔大王が描かれているので怖い気味が悪いのかと思いきや、そうべえと地獄で出会った仲間たちが知恵を働かせて様々な地獄(試練)を乗り越えるので、読み進めていくとどんどん楽しくなってきます。さくら組のみんなの爆笑を誘った場面は、“じんどんき”という人喰い鬼を歯抜けにし、腹痛とくしゃみと大笑いとおならを全部いっぺんに引き起こさせてやつけたところ。地獄と聞くと怖くて暗いイメージが強いのですが、この絵本を読むとなぜか面白くて、ページをめくる時にも「ちよっと待って、よく見せて！」と言いながらじっくり見てみたり、笑ったり、今まで知らなかったことの発見があったり…。不思議な世界に、私も子どもたちと一緒に引き込まれていました。

<さくら組 S先生>



夏休みの読み聞かせカードより

カッパのかんた (作) カズコ・G・ストーン (出版社) 福音館書店

この絵本を読んだのは、義父が「兵庫県福崎町」のこわいカッパを見せたのがきっかけで、息子はカッパをきらいになりました(笑)。ですが、「こわいカッパだけじゃないよ」という意味も含め読んだのが『カッパのかんた』です！最初はイヤと言っていましたが、絵本を読むのは好きだったので、しっかり最後まで聞いてくれて、かわいいカッパは好きと言ってくれました。それにこの絵本のカッパはおもしろいカッパだったので、おどりながらカッパのマネまでしていました！ とりあえず少しでも好きになってもらえて良かったです！



<こぼと組 Kさん>



ヘンテコはみがきこ (作・絵) 宮西 達也 (出版社) 学研プラス

ヘンテコかいじんが作ったヘンテコはみがきこ。りんご味のはみがきこを使うと顔がりんごになってしまいます。家族や近所のおじさん、幼稚園のみんなもそれぞれ自分の好きなはみがきこの顔になって…。みんなの顔が変わっていく様子に興味しんしんでした。各ページにヘンテコかいじんが隠れているのを見つけるのも楽しいようです。身近なはみがきの話に、ちょっぴり怖い気もするけれど、気に入ったようです。

<つばめ組 Mさん>

みんながいこつ

(文) たなか ひろこ (絵) たなか やすお (出版社) 偕成社



近頃はおばけやううれい、ハロウィンなど少しぶきみなものに興味が出てきたようで、こちらの絵本は何度も何度も読んで！とせがまれる程気に入っている様子です。がいこつがなわとびをしたり、すべり台をしたり、面白い、ユニークな絵柄に夢中になっていました。がいこつ同士がケンカをした場面では、「何でケンカしちゃったの？ アイスをとっちゃったの？」と毎回不思議に思うようです。最後のまさかの展開には、まだ、ん？と思うようですが、娘も、自分ががいこつの仲間という気づくのでしょうか？と一人くすりと笑う母です。

<ひよこ組 Nさん>

ふまんがあります

(作) ヨシタケ シンスケ (出版社) PHP研究所

姉弟揃って、「おとなだけいつもずるい！」とよく言うようになり、そんな時、本屋さんでみつけて家族満場一致で即決した一冊です。女の子が日頃、大人に対して思っているふまをぶつけて、「ズルいのをやめてもらおう！」と行動にうつします。そのなげかけに対するお父さんの丁寧かつ面白い返答に、なるほど。と思わされる場面がたくさんありました。女の子がふまを言うとき子供たちは「そーそー！！」と共感し、その答えが腑に落ちないと「えー！ うそだー！！」など、ヒートアップしていました。とはいえ、私も心の中では子供たちの言い分に「わかるわかる」と思ったり、自分が子供だった頃の気持ちと、今、親になって思う事の両面を考えさせられました。一番最後に女の子が「大好きなパパが…」と願うセリフを真に受け、パパが嬉しさのあまりポーっとして癒されました。



<すみれ組 Aさん>

まじよのすいぞくかん

(作) 佐々木 マキ (出版社) 福音館書店



お兄ちゃんが幼稚園から頂いた絵本で、息子もとても気に入っているようです。よく、「読んでー」と持ってきます。この絵本は女の子と犬が遊びに入った森に変わった水族館があり、中にはヘンテコな名前の魚が水槽に入っている…。でも実は魔女に姿を変えられた動物達だったという内容のもので、面白いけどちょっぴり怖い絵本で、自身が物語の中に入り込んだように集中して聞いていました。「本当にこんなことがあったらどうしょ～」「魔女っているの！？」と目をキラキラさせていました。純粋でかわいいなと思いました。

<たんぼ組 Sさん>

※紙面で紹介している絵本の表紙画像の掲載には、出版社の許諾をいただいております。



編集後記

今年度2回目のぶれーめん通信をお届けします。とっても暑かった今年の夏、外に出られなくて家で絵本タイム♪というお家も多かったのではないのでしょうか。絵本が好きで集めている私ですが、皆さんの夏休みの読み聞かせカードにはまだまだ知らない絵本がたくさん！ぶれーめんでは秋まつりで毎年恒例の古絵本市を開催します。たくさんの方の素敵な絵本との出会いがありますように。お待ちしております。

<さくら組 K>